

データの収集と分析について

データとは、広義では、推論、判断、意思決定をするために用いるあらゆる資料や情報を指す言葉です。狭義では、数値で表現されたものを指す。

「データ」とは、資料、数値、観察の結果えられた事実のこと。物事をまずは観察し、事実を収集する。これがデータ。

「データ」に対し、加工・分析を行うと、何らかの意図・価値を得ることができる「情報」になる。

「情報」に対して理解が進むと「知識」となり、「知識」の活用が進むと「知恵」となります。どんどんと人の「意思」「判断」「意識」が入り込んでくる。

日本語だと「Information」も「Intelligence」も「情報」ってことで、単純な情報が「Information」で、それをつなぎ合わせて活きた情報が「Intelligence」となる。

統計とは、データに現れる変異のありさまを、平均値、標準偏差等で数字的に記述したり、グラフに表したりすることを指す言葉であるから、統計をとるためのデータを「統計データ」とも言う

データを収集する。これは一体何のためでしょうか。データに基づき的確な推論、判断、意思決定を行いたいからに他ならないのです。無目的の収集データは役に立たない、と考えたほうが正しい。当該問題の解決に役立つように収集するよう心がける必要がある

分析とは、一見するだけではデータの構造が理解できないとき、適切に加工・処理することにより客観的に事実を解明し法則性を見出すことである、と言える

説得力ある分析をするためには、数学、「保険」統計学、データ分析論、データマイニング、オペレーションズ・リサーチ、意思決定論等の知識が必要になる。

いまや、マイクロソフト社の Excel（表計算ソフト）と Access(データベースソフト)の活用知識、分析の知識そしてインターネットに接続できる環境があれば、誰しもがかなり高度な分析をすることができる。その分析結果を上手に利用することで説得力、判断力が格段にアップする。

統計分析の型：

